

US駐在よもやま話



米国駐在3か月プログラムは、創英独自の米国実務研修プログラムとして制度化されていますが、現在に至るまでの経緯や労苦を初期の駐在経験者に語ってもらいました。

<出席者>

司会：西本 博之 (2012.2.14~5.12)
副所長：黒木 義樹 (2009.4.13~8.14)
弁理士：池田 成人 (2010.6.21~9.17)
弁理士：石坂 泰紀 (2010.9.22~12.17)
弁理士：高木 邦夫 (2011.1.11~4.5)
弁理士：平野 裕之 (2011.4.3~6.30)

※()内の数字は、駐在研修期間

司会：今日はUS駐在(短期:3か月)にフォーカスして、過去に駐在を経験された皆さんにお話を伺うという座談会です。特に、初期の頃に駐在された皆さんは苦労も多かったと思いますので、それらを中心にお話を伺えればと思います。

黒木：短期で行くのは、僕が最初でした。本当は1年だったんですが、仕事上の影響もあって直前に長谷川さんから3回に分けて行けと言われて。後で2回行かせてやるからと。

司会：2回目はまだない？

黒木：ない(笑)。あと、この駐在は4か月だったのでビザが必要だった。ビザを取得するための書類の準備が大変でしたね。また大使館に面接に行かないといけないとか、いろいろあり、米国の移民弁護士にそこそこの額を払ったような気がします。

ビザを取得した後は、今度は家探し。自分で探したんですけど、ラッキーなことに親戚がDC(ワシントンD.C.、以下「DC」)でアパート経営をしていた。学生向けのアパートだったんですけど、その一部屋を貸してくれるっていうことになって。ただ交通の便が悪く、地下鉄が無いので、バスで駐在先事務所まで通っていました。DCのバス、割といい加減で、来なかったり遅れたりすることもあったりして。なんか困ったなーっていうことで、途中で自転車を買ったわけです。そしたら帰る2週間前に盗まれた(笑)。

あと、家は無事に借りられたんですけど、インターネットは接続状況が悪くて、個人で別に契約しちゃったんですね。そしたら、帰るときにすごい料金吹っ掛けられて色々交渉し、最終的には、大家さん(元弁護士)が間に入って来て、なんとか安く値切ってくれました。

トラブルは入管のときもありましたね。僕のビザの期間が4か月程度だったのですが、移民弁護士いわく、それプラス10日をアディショナルでくれるルールがあるらしいんです。ただ入国で判子を押してもらったとき、ちょうどそのビザの期間しか滞在許可をくれずアディショナルが無かったので、ルールを見せながら文句言っても、全然相手にしてくれない、カスタムが。その後、自分で空港のカスタムまで3回くらいバトルしに行ったけど、最初の2回くらいは門前払い。そこで、移民弁護士に電話したら掛け合ってくれて、話し合いをして、そのエクステンションをもらえた。帰りの航空券をアディショナルの日程で既に取りっていたから死活問題だったんです(笑)。ただ、インターネットとエクステンションの交渉を自分でやったことで、結構自信ができました。やれば、なんとかなるなという感じで(笑)。

司会：黒木さんの次は、池田さんが行かれたんですよ。長谷川さんのご指名で。

池田：そうですね。長谷川さんに呼ばれて、半年か1年くらい先延ばしにしたんですけども、2回目に言われたときにごまかしきれなくて(笑)。それで寒い季節は嫌だったんで、暖かい季節を選びました。で、色々準備したのですが、アパート探るのが一番大変で、3か月で契約してくれるアパートってそもそもないですよ。家賃も高いですよ。

司会：黒木さんのアパートを引き継がれたわけではない？

池田：貸してくれなかった(笑)。空気がなかったとかね、分からないけど、そういう事情だったと思います。また、そこは場所も不便だったので、地下鉄エリアで探そうって思い、現地の人向けのアパート

探しサイトみたいなのを見ました。そこには個人の家主さんとかも貸してるわけ。自分の持つてるマンションだけど、今は別の所に住んでいるので、そこを貸してるとか。それぞれ個人の条件で家賃と契約条件を決めて募集しているサイトがあって、それを毎日見てました。

司会：日本で探して、日本で契約したんですか？

池田：契約は日本ですよ。誰も手伝ってくれないので全部自分でやりました(笑)。

司会：アパートはどうやって決めたんですか？

池田：場所はいろいろ探したんですけど、交通の便もよさそうで、物件が多く見つかるのがボールストンだったので、その辺りを特に探しましたね。

でも、まあ3カ月で貸しているところって少ないから家賃高いんですよ。基本的に高いうえに、期間が短いというより更に上がったりする。期間が短いなら、もっと高い家賃にさせてくれとか言って。

たまたま見つかったところが、個人の家主さんの物件で、その家主さんが別に期間短くてもめんどくさいから家賃は今のままでいいと言ってくれたので、じゃあそこにしようってなった。ところが、契約前の審査では、お抱えの弁護士さんが反対しているとかで、なかなかOKしてもらえなかった。そこで、自分はパテントアトニーでこの事務所に駐在するとか、創英のウェブサイトを経歴が載っているとか色々説明をして、やっとOKが出て、契約書を交わしました。それが渡米の1週間前。

司会：なるほど。ところで話は前後するんですけど、池田さんのときはもうビザは無し？

池田：そうそう。黒木さんがビザで苦労した、3カ月だったらビザが要らないということを私と長谷川さんの前で話したら、その場で3カ月でいいじゃんってなった。なので、僕のと時からビザ無し3カ月(創英の短期駐在プログラム)になったっていう感じですね。

司会：池田さんの次が石坂さんになるわけですが、石坂さんは池田さんのアパートに入ったんですか。

石坂：入りました。家主さんへの連絡は池田さんから引き継いでもらって、次の3カ月は私が入るから延長してくれみたいな感じで入居したと記憶しています。入居してみると結構住み心地もよかったですし、駅も近くて便利でした。

ただ一度、いやな思いをしたことがあります。私

が家を空けるときに、家主さんが丁度、こっちに帰ってくるから、アパートの中を見たいって話になったんです。そして、アパートの中を見られて、台所のシンクが傷だらけになってるっていうクレームを受けて。僕は普通どおり使っただけだったのですが。それをどうやって説明しようっていうので、通常どおり生活していたらこれくらい傷むはずだ、みたいな言葉、あるじゃないですか、ちょっと忘れちゃったけど。

池田：経年劣化。通常使用による損耗みたいなやつですね。

石坂：そうそう。それを駐在先の弁護士に説明して、それ英語で何って言うんだっけって相談して(笑)。それをメールで大家に送って。たぶんそれはそれで済んだのかな。

あと、ボールストン会(日本人の知財関係者が定期的に集まって情報交換する会)で、そういえば家賃いくらかみたいな話になって、情報交換していたら、メリディアン(アパート名)が安いねって話になった。そこで、ちょっと安いところを探してみようかみたいな話になり、新たなアパートに移ることを検討することになった。その時、ちょっと困ったのが、メリディアンの契約をするときに推薦人か保証人かを、3人から5人集めろって言われて、おまけに、それは違う事務所じゃなきゃだめとか言われた。そこで、代理人訪問したときに、ほかの代理人に事情を説明して、ここにサインしてくれませんかねって(笑)。結構みんなが助けてくれて、親切でしたね。おかげさまで借りられたんです。



司会：メリディアンには、その後、高木さんが入ったんですね。

高木：そうですね。真冬の1月に行ったんですけど、寒い中。石坂さんからは部屋の中には何もないよって聞いていて、覚悟はしてたんですが、本当に何にもなくて。



石坂さんは、新しいアパートを借りるまでで、最初に入るのは僕だから、中は空っぽ。コップもない、フォークもない(笑)。それで床に新聞敷いて寝て。しかも僕が行ったのは1月なんですけど、石坂さんが他の事務所の人(USに駐在している日本人)と調整してくれていて、その人から3月くらいに家具などをもらえるという話があったんです。だから、あまり買うわけにもいかず。2か月は何も無い状態だったんです。

石坂：すごいがんばって、エアマットみたいなのを買ったんじゃない。

高木：そうです、エアマットを買って、それでとりあえず布団敷いて寝てた、2か月くらい。

司会：キャンプみたいですね(笑)。エアマット、どこで買って来たんですか。

高木：色々と探しましたよ。その2か月は毎週、買い物に行っていました。

あと、そういえば、地震があったんです、最後の頃に日本で。あのときは日本と全然連絡がとれず、帰るべきか迷っていました。

司会：それは東北の？

高木：はい。東日本大震災があったんですよ。あのとき、帰ったほうがいいのかよく分からなくて。事務所としてはそんなことは想定していなかったから。誰も帰ってこいとも言わないし。

司会：それどころじゃないっていう感じですよ。そのような状況で高木さんから平野さんへバトンタッチ。

平野：はい。僕ときは、東日本大震災から1か月も経ってなくて、このまま行くべきなのかなって。でも、長谷川さんからも別に何もなくて、普通に行くんだなーって。4月上旬はまだ余震があったし、計画停電なのか節電なのか空港は真っ暗で、ひと気もなく、ものすごくさびしい思いで出発しましたね。

それでDCでメリディアンに入り、高木さんと少しオーバーラップする期間があったので、その間に高木さんからいろいろ周辺の説明とか色々聞いたりしていました。

そういえば、僕るときから初めてメリディアンの部屋にインターネットが開設されたと思う。そこで英語力だけでなく、アメリカのカルチャーを知るのが大事だなと思った経験をしました。そのとき、接続のために部屋に来ることになったテクニシヤンの人が、すごくいい加減で、待てど暮らせど来ないんですよ。コールセンターに連絡しても、いや向かってるはずだからもうちょっと待ってって言われて。でもしばらくたってから、今日はテクニシヤン、もう家に帰っちゃったと(笑)。

そこでテクニシヤンの人電話番号教えてもらって直接交渉したら、なんかボールドストンの駅前でパレードをやってて、そのパレードのせいで車が入れないから、それで帰ったと。まあ分かるけど、じゃあ、言ってよって。結局、別の日にしたんですけど、日本に比べると全然、そんなテクニシヤンの対応も悪いし、電車もすぐ止まるし、エスカレーター動いてないし、暗いし。

一同：そうそう

平野：また、僕、黒川さんとシカゴに出張に行ったんですけど、そのときに日本じゃあまり遭遇しないようなことがあって。朝、ホテルで寝てたら、いきなり電話がかかってきて、でも電話が自動音声で、「お前が乗るDCに向かう便が変更になったから、お前は今日キャンセルになった、帰りたいかと思ったらここに連絡しろ」って自動音声で言われた。寝てて、朝6時頃に、それで起こされて。でも、とりあえず帰らなきゃいけないから必死に調べて、その航空会社とかに連絡とって。最初、全然違うところの便を紹介されて、そこから電車でDC帰れ、みたいなこと言われたんだけど(笑)、そんなんじゃ困るって、ねじこんでもらって、なんとか帰れたんですけど。だいたいそういう修羅場くぐると、肝座るっていうか。

一同：そうそう

司会：皆さん、DCでは、色々肝が据わる経験をされたことが良く分かりました。皆さんの貴重な経験があったからこそ、現在の短期駐在プログラムがあるということで。本日は、貴重なお話をいただき、ありがとうございました(笑)。